

コーヒーブレイク



東京法曹会の皆さんに囲まれて

私とテニス

会員 安原 正之 (2期)

近頃よく、知人から「テニスは続けていますか、奥さんは山歩きしてますか」と声を掛けられる。私がテニスを始めたのは、60歳間近い頃、中学生になり、テニススクールに通い始めた娘と、家内と、3人で早朝自宅近くの広場で、ラケットを振り回したのがきっかけ。

年の離れた娘との、コミュニケーションに役立てばと、殊勝な思い(?)でテニスを始めた。ラケットは、中学の友人で、硬式ラケットの草分けの、フタバヤラケットの社長から、ラケットの商標や意匠の登録を頼まれたり、商標事件の資料で、何本か手元にあったが、使ったことはなかった。後楽園ボーリング場跡の、フタバヤの室内コートで、初心者レッスンを受れたり、小田急沿線のテニスコートに、苦勞して通ったりしていたが、暫くして、神宮外苑テニスクラブの、平日会員の追加募集があると聞き、正月の雪の朝、夫婦で並んで入会の手続きをして、やっと平日会員になれた。

それからは、レッスンと仲間とのテニスに、週2回位クラブに通うようになった。家族だけでプレーが楽しめたらと、期待したのもその頃である。娘も成人して結婚した。婿は、バスケットはやるが、テニスはしないと言うのを、レッスンに連れ出して、年寄り夫婦と若夫婦で家族プレーを楽しめるようになった。間もなく誕生した孫息子は、クラブのジュニアスクールから始めて、今では、中学生の都大会に出場するようになった。私自身は年毎に走れなくなり、スイングも当てるだけだが、孫息子の力いっぱいラケットを振り切る若者のスイングを横目で見ると、ほくそ笑んでいる。

テニスを始めたおかげで、私はいくつも得がたい経験をさせてもらった。仲間内でテニスの神様と言われて

いる、同期の神崎弁護士に誘われて東京法曹テニスクラブ(東弁の東京法曹会とは別の裁・検・弁法曹が会員)に入会し、毎年春か秋に行われる宮内庁との交流テニスには、欠かさず参加し、緊張しながらパートナーに助けられてプレーを楽しんでいる。1992年8月西独で行われた、日独法曹交流テニスには、昨年亡くなられた神戸の西山先生に誘われて参加した。パートナーを組んだ広島の先生の活躍で3位に入賞し、貰った賞状は今でも事務所に飾ってある。試合の後、シュツガルトの裁判官宅に招かれたパーティも、心に残るものがある。

万年ビギナーのテニスで、昨年の東京弁護士会テニス大会にも初中級でエントリーした。「良く続きますね、ゴルフよりハードでしょう」と言われるが、ちょっと風邪気味で体が重いようでも、コートに立つと思わず動き廻って、レッスンを終える頃には、スッキリした気分になれる。

それでも7年程前、コートでプレー中、足がもつれて倒れこみ、立てなくなり、やっとの思いで帰宅したことがある。レントゲン検査で、大腿骨下端部に僅かながら凹欠があり、壊疽と診断された。長年使用の結果と言われた。暫くは外出も叶わず、テニスもゴルフも止めていた。リハビリで整形外科の医師は、骨の完治は無理だが、筋肉の退化は訓練次第で防げると、適当な運動を奨められ、膝にサポーターを巻きながら、恐る恐るテニスレッスンに参加し、なんとかプレー出来るまでになった。最近のレントゲンでは、骨の欠損跡も大分癒えた。

今年5月で86歳になったが、体調に留意し、これからも、若い方達に混じってテニスを続けたい。